

165. 生産性向上と技術開発

技術戦略部次長 白崎 亮

年度も替わり、人事異動もあり（JS 技術戦略部でも新部長が着任しました）、心機一転で業務に取り組まれている方も多いと思います。私は4月になり、JS 技術戦略部での勤務が2年目になりました。今まで、職業柄多くの職場を経験してきましたが、直接ご指導いただいた方、一緒に働いた方が卒業されることも多くなり、新陳代謝は必要とはいえ、この季節、複雑な思いを抱くことも多くなってきました。

さて、本題の生産性向上ですが、生産性とは、生み出された価値（アウトプット）を、投入した労力や投入物（インプット）で除したものと一般的にされていますので、同じアウトプットであれば、インプットを削減することで生産性を向上させることが可能になります。

日本は、石油、天然ガス、鉄鉱石等の資源が少ないため、加工貿易（現在では現地生産が主流でしょうから、もう死語になっているかもしれません。）で成り立っていると大昔に習ったような記憶があります。現在でも自動車産業等は国内生産も多く、国際的に競争力を有する分野であるため、国内工場でも生産性は高いのだと思います。

さて、下水道分野での生産性ですが、下水道という事業の性格上あるいはアウトプットの計測の困難性等から、生産性を意識することは、これまであまりなかったのではないのでしょうか。しかし、都市間での競争が激しくなっている状況をふまえると、地方公共団体が事業主体となっている下水道分野でも生産性の向上が一層求められると考えられます。例えば、インプットを削減するためには、省エネルギーシステム・機器の導入、下水道 CIM の実用化・導入、センサー等を活用した劣化診断・異常診断技術の実用化等が考えられます。また、下水道が有する資源・エネルギーを活用することで、アウトプットを増大させることも考えられます。下水道資源を利活用することで、下水道が地域産業に貢献している事例も各地で見られています。

技術戦略部では、この4月に JS 技術開発基本計画（第4次）を策定し、「省エネ・低炭素化技術」「資源・エネルギー利活用技術」「施設機能維持・向上技術」「生産性向上・最適化技術」の4つを柱に技術開発を推進することにしました。下水道事業の生産性向上に寄与できる、地方公共団体のニーズに応じた技術開発を行ってまいりますので、今後も技術戦略部に期待いただければ幸いです。今年1年よろしく願いいたします。